

## 研究・調査報告書

| 分類番号  | 報告書番号  | 担当                  |
|---|--------|---------------------|
| A-169   | 16-094 | 滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 |
| <b>題名（原題／訳）</b>   |        |                     |
| Daily associations between PTSD, drinking, and self-appraised alcohol-related problems.<br>PTSD、飲酒および自己評価したアルコール関連問題との関連  |        |                     |
| <b>執筆者</b>  |        |                     |
| Wilson SM, Krenek M, Dennis PA, Yard SS, Browne KC, Simpson TL.   |        |                     |
| <b>掲載誌</b>  |        |                     |
| Psychol Addict Behav. 2017 Feb;31(1):27-35. doi: 10.1037/adb0000238.  |        |                     |
| <b>キーワード</b>  |        | <b>PMID</b>         |
| アルコール依存症、心的外傷後ストレス障害、アルコール関連問題  |        | 28068120            |
| <b>要 旨</b>  |        |                     |
| <b>目的：</b><br>アルコール依存症と心的外傷後ストレス障害（PTSD）は高頻度に併存し、これらはアルコールに関連した問題と関連するため、PTSD と飲酒に着目した研究は限定されている。アルコールに関連した問題を患者自身が評価することは、これら疾患治療における介入戦略あるいは予後にとって大きな意味を持つと考えられる。本研究では、飲酒とアルコール関連問題が、PTSD の症状と重症度に与える影響を検討した。 |        |                     |
| <b>方法：</b><br>アルコール依存症と PTSD を併発した 86 名を対象とし、1 週間の音声自動応答を用い、PTSD の症状、重症度、日々の飲酒量およびアルコール関連問題について調査した。ロジスティックモデルおよびマルチレベルモデルを用い、飲酒量、PTSD の症状・重症度に関する自己評価によるアルコール関連問題有のオッズ比を推定した。                                  |        |                     |
| <b>結果：</b><br>飲酒量が多いほどアルコール関連問題有のオッズ比は高かった。また、飲酒量と PTSD 有無はアルコール関連問題有に対する交互作用を認めた。飲酒なしあるいは少量飲酒の日においては、PTSD の症状および重症度が悪化するほどアルコール関連問題は多く、正に関連した。しかし、多量飲酒の日において、PTSD 症状および重症度はアルコール関連問題との正の関連を認めなかった。             |        |                     |
| <b>結論：</b><br>本研究結果は、アルコール依存症と PTSD 併発の治療だけでなく、飲酒の PTSD に対する緩和効果についてさらなる調査が必要である可能性を示唆している。   |        |                     |